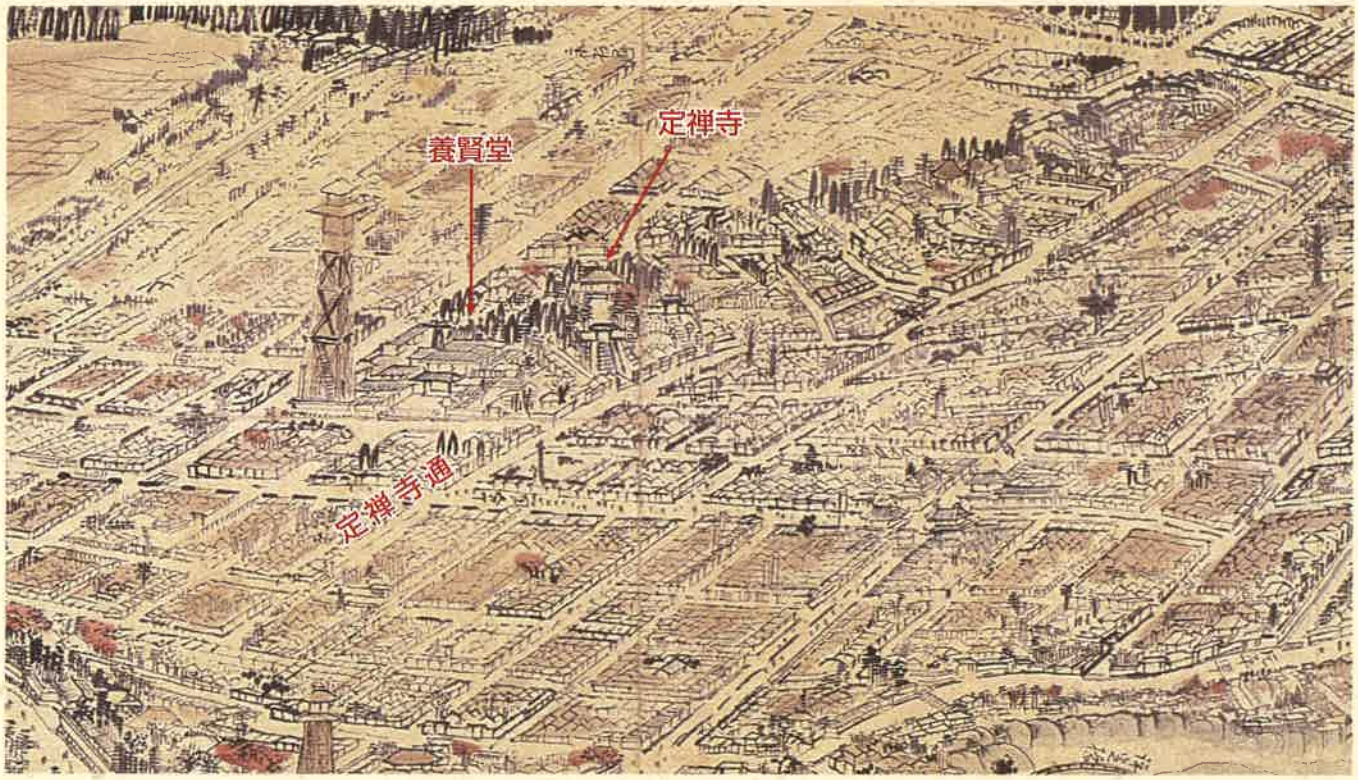
sendai-city chronicles communication paper.

せんだい 市史通信

第13号
仙台市博物館
市史編さん室



『明治元年現状仙台城市之図』（部分）　仙台市博物館蔵

せんだい 今 昔
定禅寺と定禅寺通

定禅寺通。江戸時代、仙台の通り名は行き先の地名を冠してつけられていたので、その名前が示すとおり、この通りを東に向かうと定禅寺という名の寺がありました。木町通から東に向かって定禅寺通櫓丁を過ぎると、国分町から東へ定禅寺までが定禅寺通です。仙台城下の街路の道幅は、5間（約9メートル）ほどあったという大町などを除けば、3～4間（約5～7メートル）である場合が多かったようです。明治以降、定禅寺通は木町通以西がつながり、道路幅が拡幅され、戦後の復興でさらに拡幅されて現在のように長さ約670メートル、幅約50メートルとなりました。

現在の宮城県庁の前にある勾当台公園の少し高台になっているところが定禅寺の跡地です。明治初年の仙台のようすを記した絵図には、定禅寺通の東端から門前町があり、高台に向かって階段をのぼり、山門を入ると杉などの大木に囲まれた境内が描かれています。東南隣に接して大聖寺があり、北西隣には藩校養賢堂の講堂や火の見櫓が勾当台通に面して建っています。この高台から東三番丁、そして元寺小路に至る一帯は、いくつもの寺院が連なり城下の寺町を形づくっていました。

定禅寺は、伊達政宗が仙台に城を築くことになった際に、城の東北、つまり鬼門に位置するという理由で真言密法の祈願寺と定められ、城下の守りをつとめました。着座格として寺領は66石を与えられ、3つの傍院をもっていました。

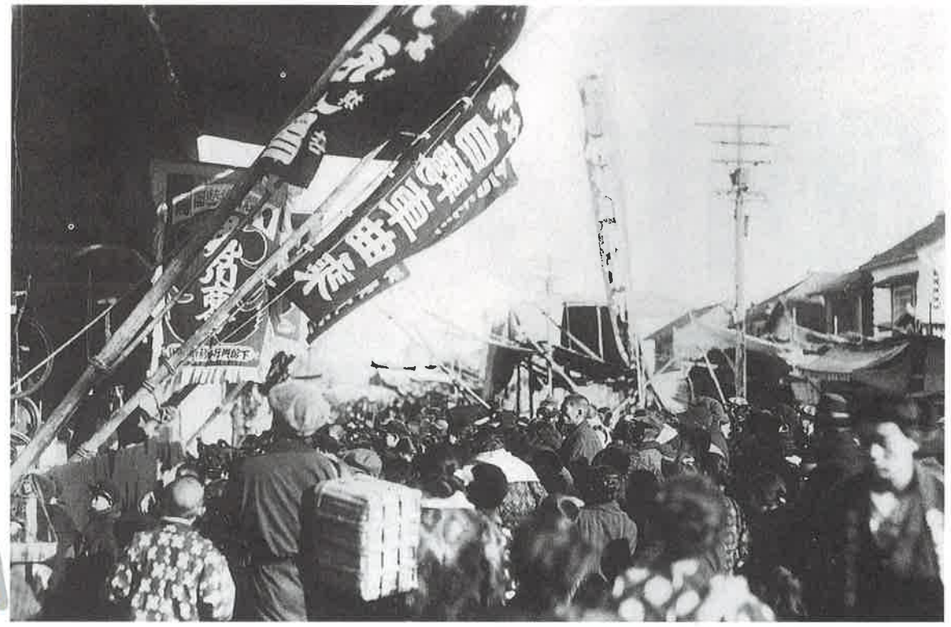
しかし、明治維新を迎えると廃仏毀釈が進み、定禅寺もまた伊達家の保護を失って衰退し、明治6年には廃寺となりました。その後ここには、陸軍病院（衛戍病院）が置かれました。隣接する養賢堂は戊辰戦争のとき、奥羽鎮撫使の本営となり、明治4年には廃藩置県によって仙台県（翌年宮城県と改称）の県庁舎となりました。また宮城書籍館（のちの宮城県図書館）や商品陳列所、武徳殿、県警察署などの建物もありましたが、昭和20年7月の仙台空襲によって昭和6年建築の県庁舎を残して焼失してしまいます。

戦災復興事業として整備されたのが、定禅寺通緑地と、18,500坪の勾当台公園です。通りには、はじめはサルスベリや桜、モミジなどを植える予定でしたが、昭和30年ころになって歩道に2本、その後グリーンベルトに2本と計4本のケヤキが並ぶことになりました。そして今、約160本のケヤキの下では季節ごとに催事が行われています。春には青葉まつりの山鉾、夏には吹流しを眺めながらの七夕パレード、秋には定禅寺ストリートジャズフェスティバル、冬には夜空に幾万の光のページェントなどが市民を楽しませてくれているのです。

定禅寺通での光のページェント

特集

仙台の歳の市



大正12年（1923）12月「仙台・歳の市」　仙台市歴史民俗資料館蔵

正月2日からはじまる仙台の初売りは藩政時代からの長い歴史がありますが、その初売りと同じく、仙台で古くから行われていたのが12月25日から大晦日まで開かれた歳の市です。
今回は歳の市の歴史についてご紹介します。

歳の市については『資料編7 近代現代3　社会生活』442～451ページに関連する資料を収録しています。

藩政時代の歳の市

仙台での歳の市の起源については、大町の初代肝入となった只野小右衛門が、毎年12月25日から3日間仲見世を開く特権を認められたのがその始まりと伝えられています。実際に、大町三四五丁目内に立った仲見世の店賃が肝入の収入となったという資料も残されています。

その後、芭蕉の辻を中心とした東西南北の通りに沿って仲見世が並ぶようになり、嘉永2年（1849）に出版された『仙台年中行事大意』の中にも「（十二月）二十五日。年の市。晦日迄なり。大町、芭蕉辻、国分町十九軒に立」という記述が見られます。また、同じころに出版された『仙府年中往来』には、芭蕉の辻や国分町通に立った仲見世が、お歳暮や正月の飾り物などを売買する人々で大変な賑わいであった様子が書かれています。

明治・大正時代の歳の市

明治時代になると、歳の市は東一番丁、東二番丁を中心に開設されるようになりますが、明治21年（1888）からは、前年の鉄道開通によって道幅の広くなった南町通にその中心が移り、以後賑やかさを増していきます。当時の新聞では、それまでの仲見世に加えて、曲馬、活動写真、軽業、人形、変わった動物などさまざまな小屋掛けが開設され、多いときにはそれらの店の数が三百近くにもなったと伝えています。南町では、数日間の歳の市開設による収入で、1年間の町費を賄えるほどであったという話もあります。明治末年から大正初年にかけて、歳の市の開設場所をめぐって清水小路と競い合うこともありましたが、数年後には再び南町通にその中心が戻ります。

大正13年（1924）12月25日「仙台の名物・仲見世」
仙台市歴史民俗資料館蔵

昭和以降の歳の市

このように賑わった歳の市も、大正15年（1926）に市電が開通すると状況が一変します。それまでのように小屋掛けを開設することが困難になり、翌年の収支が赤字となったのを最後に、南町通から仲見世が姿を消します。その後、北一番丁、東三番丁、東二番丁などと開設場所が転々とし、戦後も小規模ながら仲見世が開かれたこともありましたが、ライフスタイルの変化とともに、歳の市は商店街の歳末大売り出しなどに吸収されていきました。

資料みつけた

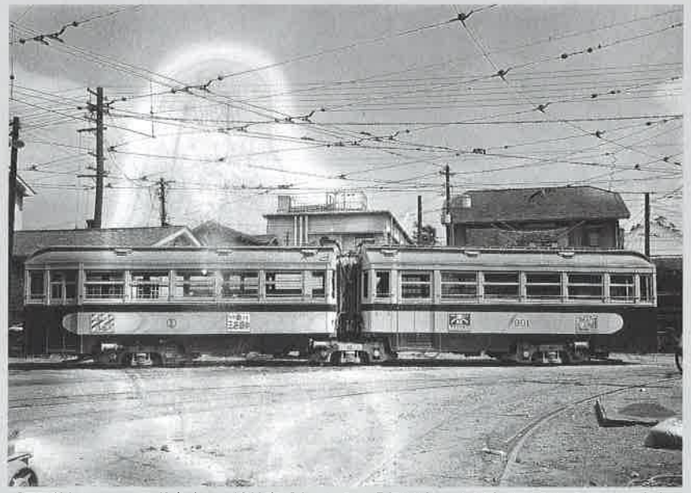
古写真

「仙台市史」のように歴史を扱ううえで、重要な材料となる資料。資料がなければ、時代をさかのぼる作業は困難になるでしょう。ここでは先人たちが残してくれた資料をご覧ください。

写真は、事象を記録した画像資料として大変貴重なものです。市史編さん室では各方面に呼びかけて古写真の調査・収集を行っており、これまでにも、さまざまな古写真を『仙台市史』で紹介してきました。たとえば、退色した古いプリントがあれば、それがどこなのか、被写体は何なのか、年代はいつごろなのかを、記録や所蔵者の思い出などを手がかりに調べ、さらに複写して整理・保存を行います。見過ごしてしまいがちな古い写真のなかにも、失われた町並みや、その時代の風俗・世相など、多くの情報が込められているのです。

古写真とひとくちにいっても、その形態はプリントやネガフィルム、ポジフィルムなど様々です。フィルムの普及で姿を消した「ガラス乾板」は、ガラスの上に写真感光材料を塗布したもので、大変壊れやすいうえ、画像自体も劣化し剝がれてしまいます。保存状態が悪いと、重なったガラスがくっついてしまうこともあります。

編さん室には、このようなガラス乾板が600枚ほどあります。



ガラス乾板に写された仙台市電　連結車が走ったのは昭和30年から41年までの間です。画面中央に画像の劣化が見られます

和室でのダンスパーティー（昭和30年代）

ひとつは平成8年に寄贈されたもので、昭和8年から11年ころの撮影です。天守台から見た仙台市街や市内各所の光景のほか、小田原や北山・八木山などの田園風景などが写されています。仙台空襲により失われた仙台城大手門や養賢堂などの古い建物の写真も多くあります。

一方、平成15年に寄贈されたものは昭和20年代後半から40年代初めに撮影されたものらしく、記念写真などのほか、進駐軍のキャンプや兵士の普段の生活を写したものも含まれていました。パーティーでギターの腕前を披露する若い兵士や、食堂で日本人職員と記念撮影したらしいもの、畳敷きの部屋で日本人と一緒にダンスを踊る人々など。これらは、戦後の復興のなかで、日本人と進駐軍兵士との交流を記録した貴重な資料といえます。

刻々と変化していく「普段の風景」を記録することの大切さを、古写真は教えてくれるのです。

施設探訪　鹽竈神社博物館

市史編さん室では写真や資料の収集などのため、調査に出かけたりします。ここでは今までに訪れた施設をご紹介します。

古くより「奥州一の宮」と称され、今も多くの参詣者が訪れる鹽竈神社。その境内の一角に鹽竈神社博物館があります。

博物館は昭和40年（1965）に開館し、国指定重要文化財「来国光太刀（糸巻太刀拵共）」、「雲生太刀（黒漆太刀拵共）」をはじめ、約5000点の資料を収蔵しています。展示室は、伊達家歴代藩主が鹽竈神社に奉納した太刀などの武具や甲冑、古文書を配した1階と、資料や模型で製塩・漁業史を学べる2階からなっています。

毎年1月1日に新春特別展が行われ、平成17年は開館40周年記念『新春名刀展』が開催されます。（『新春名刀展』は1月23日まで。会期中は午後4時30分まで開館します）。

なお、鹽竈神社については『通史編　古代中世』『通史編　近世1、2』などで取り上げております。

鹽竈神社博物館
宮城県塩竈市一森山1-1　TEL 022-367-1611（代表）
開館時間　4月1日～9月末日：午前8時30分～午後5時
12月1日～1月末日：午前8時30分～午後4時
10月・11月・2月・3月：午前8時30分～午後4時30分
休館日　年中無休（ただし展示替えなどにより臨時休館の場合があります）
観覧料金

	大人	中高生	小学生
通常	200円	100円	80円

※特別展についてはそのつど定めます。

➡印は一方通行です

交通　JR仙石線本塩釜駅から、表参道（表坂）の石鳥居まで徒歩15分、東参道（裏坂）の石鳥居まで徒歩7分、社務所前までタクシーで5分
JR東北本線塩釜駅から、表参道（表坂）の石鳥居までタクシーで8分、社務所前まで同12分

仙台の歴史を完全収録 各分野ごと続々登場

既刊 好評発売中

『通史編5　近世3』は平成17年2月発売予定です。どうぞご期待ください。

【通史編２】古代中世
【通史編３】近世1
【通史編４】近世2
【資料編１】古代中世
【資料編２】近世1　藩政
【資料編３】近世2　城下町
【資料編４】近世3　村落
【資料編５】近代現代1　交通建設
【資料編６】近代現代2　産業経済
【資料編７】近代現代3　社会生活
【資料編11】伊達政宗文書2
【特別編１】自然
【特別編３】美術工芸
【特別編４】市民生活
【特別編５】板碑
【特別編６】民俗

通史編　3,000円(本体2,858円)
資料編　4,000円(本体3,810円)
特別編　6,000円(本体5,715円)
※板碑のみ 5,000円(本体4,762円)
1冊ずつお求めになれます

【通史編１】原始（販売停止）
【資料編10】伊達政宗文書1（完売）
【特別編２】考古資料（販売停止）

続刊予定
◎通史編
近世3・近代1～2・現代1～2
◎資料編
近代現代4・伊達政宗文書3～4・仙台藩の文学芸能
◎特別編
城館・慶長遣欧使節

直接お求めの方
県内主要書店・仙台市博物館2階売店でお求めになれます。

配送をご希望の方
電話・FAXで宮城県教科書供給所へお申し込みください。

発売元
宮城県教科書供給所
〒983-0034
仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL:022-235-7181
FAX:022-235-7183

お問い合わせ先
仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862
仙台市青葉区川内26番地<仙台城三の丸跡>
TEL:022-225-3074
FAX:022-216-1830

おねがい
市史編さん室では、仙台の歴史にかかわる資料を探しています。よりよい仙台市史を作るためにはより多くの資料が必要です。皆さまのお宅に古い文書や写真などございましたら、ぜひ編さん室までお知らせください。　TEL 022-225-3074

『市史せんだい』のお知らせ

『市史せんだい』では、仙台の歴史をさまざまな角度からとりあげる特集や、昨年度の市史編さん事業の報告、市史編さん過程で得られた膨大な資料からの研究成果を論文、研究ノートなどによって紹介しています。

第14号の特集は「仙台の用水と土地改良」。土地改良や水環境と関わっている方々による座談会の記録や、仙台市域における水利とため池の現状についての研究ノートを掲載しています。論文は、明治初期に開設された長町青物市場の市場税をめぐる紛争について、江戸中期の作とされる『躑躅ケ岡図』に描かれた当時の仙台の諸相についての二つを掲載。

また、万治3年（1660）に幕府から逼塞を命じられた仙台藩三代藩主伊達綱宗の行状について、父である二代藩主忠宗から家臣にあてた書状を紹介し、父子関係について考察しています。

『市史せんだい』は仙台市博物館2階売店でお求めいただけます。

●1冊900円（税込み）
●Vol.1、2、4、7、8は品切れとなっております。

せんだい市史通信 第13号
発行年月日／平成16年12月17日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862　仙台市青葉区川内26番地<仙台城三の丸跡>
TEL／022-225-3074
FAX／022-216-1830
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum
R100
古紙配合率100%白色度85%再生紙を使用しています